



水

稲

管

理

情

令和7年4月
J A 能登わかば
能登南部営農推進協議会

田植え編

**育苗日数1か月以内の健苗を
植え、分けつを確保！**

営農情報をLINEで迅速に！

このQRコードから友達登録を
してください。

営農情報が迅速に届きます。



1 健苗の準備

〔計画的な播種で、健苗育成に努めましょう〕

- 田植え後の活着や初期分けつの発生を良くするために、播種してから1か月以内の健康な苗を田植えしましょう。

葉数(葉齢)が3枚(3葉期)に達する前に田植えをすることが大切です。

⇒ 老化苗(育苗日数が長く、葉齢が進んだ苗)では、活着が遅れ、初期分けつの発生が遅くなり、優良茎の確保が難しくなり、未熟粒による品質低下や減収に繋がります。

- 田植えの4～5日前からは夜間もハウス側面を開放し、外気に慣らしましょう(順化)。

2 代かき作業について【超重要】

- 代かき作業は、田植え日や除草剤散布日を考えて計画的に実施して下さい。
- 浅水での代かき作業を実施し、代かきによる濁水の河川流出を防止しましょう。ため池や水路の復旧が十分に進んでいない地域では、十分な用水の確保が困難となる可能性があります。代かきから収穫までの作付期間を通した「節水栽培」に地域全体で取り組みましょう。
- 畦が崩れていたり、穴などの漏水箇所は早めに補修しましょう。

3 田植え作業について

- 時期：田植が遅くなると老化苗により活着が遅れ、早いと過繁茂を招くので、適期(5月)田植を心がけましょう。低温、強風の日では植え傷みを助長するので控えてください。
- 植付本数：3～4本/1株 ⇒ 太植えは、過繁茂を助長します。
- 栽植密度：60株/坪以上 ※極端な疎植は避けてください。
- 植付深さ：2～3cm(第1葉が見える程度)の浅植え
⇒ 深植えでは、分けつや根の発生が遅れます。
- 水管理：活着後は浅水管理(2～3cm)を基本とし、低温が予測される日や風が強い日のみ一時的に深水管理とします。(天候回復後は速やかに浅水管理に戻して下さい)

- 田植え前と田植え中に、田植機の栽植密度、植付け深さの設定を確認しましょう。

4 基肥施用について〔能登米コシヒカリ：化学窒素成分量7kg/10a以下〕

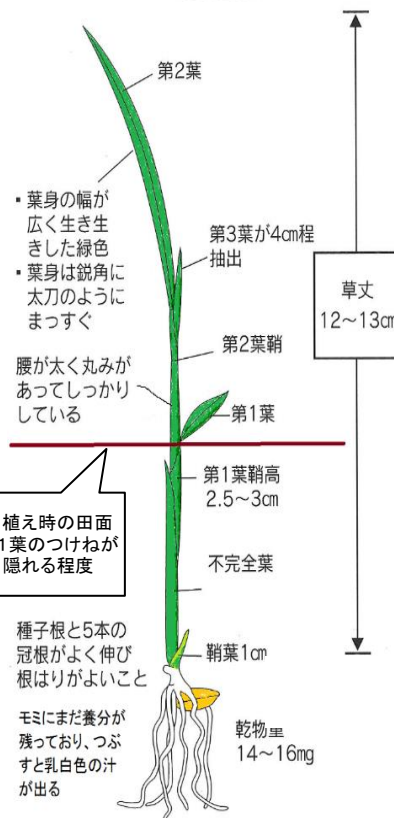
- 基肥一発肥料は全層施肥の場合、代かき直前に行い、代かきから田植えまでを5日以上空けないようにして下さい。(施用日と田植日の日数が開くと、穂肥の溶出パターンと稲の生育がズレ、倒伏や品質低下を招きます。)

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)	
		能登米コシヒカリ	ゆめみづほ等(早生)
基肥一発	BB 有機入り能登コシー発 NEO	20～30	—
	BB けい酸パワー・コシー発くん	40～55	—
	BB 里山の香	45～53	—
	BB 早生一発くん NEO	—	30～40
分施肥系	BB 高度056号	20～28	40

※ 施用量は目安です。ほ場の地力に応じて、加減して下さい。

※ コシヒカリは、化学窒素成分量を3割削減した能登米栽培基準のため、施用量の上限を厳守して下さい。

田植時の良い苗



5 病害虫防除について

◆ 苗箱施薬剤の散布について

- ・ イネミズゾウムシ、イネドロオイムシなどの初期害虫や葉いもちの予防のため、防除を実施して下さい。
- ・ 6月下旬以降の低温多雨により、管内でもいもち病の発生が確認された年もあります。



イネミズゾウムシ



葉いもち

薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
Dr.オリゼリディア 箱粒剤 (2成分)	田植え 3 日前 ～移植当日	50g/箱 (高密度播種 の場合は 50～ 100g)	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、内頸褐変病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、イネヒメハモグリバエ、イネカラバエ、イナゴ類、ウンカ類
リョーガパディート 箱粒剤 (2成分)	緑化期 ～移植当日	50g/箱 (高密度播種 の場合は 50～ 100g)	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、イネヒメハモグリバエ、イナゴ類

※ 中島の育苗センターの苗には苗箱施薬剤が散布済みです。重複散布しないよう注意して下さい。

※ 葉が濡れていない状態で均一に散布し、葉に付いた薬剤は払い落して下さい。

6 除草剤の使用について

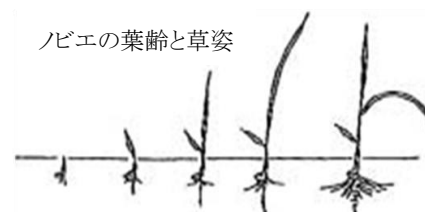
- ・ 雑草は代かき直後から発生し始めます。除草剤の使用時期を守り、かつノビエの適用葉齢以内に散布して下さい。
- ・ 湛水散布する除草剤の有効成分は、一旦水中に溶け出した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。除草剤の効果を十分発揮させるため、田植同時の場合、直ちにゆるやかに入水し、湛水状態(3～5cm)を保ちましょう。
- ・ 散布後 3～4 日間(処理層が形成・安定する時間)は湛水状態(3～5cm)を保ち、散布後 7 日間は落水やかけ流しはしないで下さい。なお、やむを得ず入水する場合は静かに(処理層を壊さないよう)行って下さい。

(参考)代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉齢	1.5 葉齢	2.0 葉齢	2.5 葉齢	3.0 葉齢
代かき後の日数(平年)	七尾	8日	13日	17日	20日	24日

※ 5月1日に代かきを行った場合で平年の有効積算温度により試算

ノビエの葉齢と草姿



1葉期

2葉期

3葉期

〈初期剤＋中期剤の体系処理〉

剤	成分	除草剤名	使用時期
初期 剤	1	マーシエット1キロ粒剤	田植同時～ノビエ1.0葉期
		ベクスーフロアブル	田植同時～ノビエ発生始期
	2	かねつぐ1キロ粒剤	田植同時～ノビエ1.5葉期



剤	成分	除草剤名	使用時期
中期 剤	2	ワイドショット1キロ粒剤	田植後15日～ノビエ4.0葉期
		ニトウリュウ1キロ粒剤	
	3	ブイゴールSM1キロ粒剤	田植後15日～ノビエ3.5葉期
		ウィードコア1キロ粒剤	田植後15日～ノビエ4.0葉期

〈初中期一発剤のみの体系処理〉

剤	成分	除草剤名	使用時期
初中 期一 発 剤	2	ボデーガードプロ1キロ粒剤	田植同時～ノビエ3.5葉期
		サラブレッドKAI1キロ粒剤	田植同時～ノビエ2.5葉期
	3	ディオーレ1キロ粒剤	田植同時～ノビエ3.0葉期
		アッパレZ1キロ粒剤	
		ジャスタ1キロ粒剤	田植同時～ノビエ3.5葉期

○ 除草残しや後発生があった場合

剤	成分	残った雑草	除草剤名
後 期 剤	1	ノビエのみ	ヒエクリーン1キロ粒剤
		広葉雑草のみ	バサグラン粒剤
		ノビエ、広葉雑草	アトトリ1キロ粒剤
			ロイヤント乳剤

- ※ 能登米コシヒカリに使用できる除草剤は限られています。この情報に記載された剤は使用可能で、
- ※ 他に使用できる剤は営農ごよみ等を確認してください。
- ※ 能登米コシヒカリ以外の品種は除草剤の指定はありません。

7 補植について **〔補植苗はいもち病の発生源となるため、すぐに処分〕**

- ・ 20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。隣接株が大きく育ち、欠株分をカバーするため減収にはつながりません。やむを得ず補植する場合は、除草剤を散布する前に実施して下さい。